

■ 学校の共通目標

授業づくり	重点	・ I C Tを活用した学習活動の充実と、教科のねらいに沿ったプログラミング教育を取り入れることにより、児童が主体的に学び共に高め合う授業を実践する。	中間評価		最終評価	
環境づくり		・活動の流れを示し学習に見通しをもたせることで、主体的な学習ができるようにする。 また、教室前面の掲示物の内容や量に配慮し、刺激量を調整する。				

■ 学年の取組み内容

学年	教科	学習状況の分析（10 月）	課 題（10 月）	改善のための取組み（10 月）	最終評価（2 月）	
1	国語					
	算数					
学年	教科	学習状況の分析（4 月）	課 題（4 月）	改善のための取組み（4 月）	中間評価・追加する取組み（10 月）	最終評価（2 月）
2	国語	・「話す・聞く」の学習では、話す体験をさらに積み重ねたい。 ・「書くこと」では、伝えたいこととその理由をわかりやすい文章で表せるようにする。	・全体の前での発表に自信がなく、言いたいことが十分に伝えられない児童もいるので、全体の前での発表の機会を継続して確保していく。 ・「書くこと」では、くっつきの「つ」や文末の「。」やカギカッコの使い方を習熟させていく。 ・普段の作文等で、習った漢字の活用をさせていく。	・ペアやグループでの話し合いや発表の経験を積み重ねることにより、全体の前での発表に自信を持たせる。 ・文を書いた後には、自分で読み返したり、友達同士で読み返したりさせる。 ・文章表現では、習った漢字は使うよう指導する。		
	算数	・繰り上がり、繰り下がり の計算については、引き続き具体物を使用しながら指導していく。 ・大きい数の足し算引き算については、習熟が必要である。 ・時計については、5 分刻みの目盛だけでは、十分に読み取れない児童もいるので、習熟が必要である。	・一桁同士のたし算、ひき算の定着は概ねできているが、位取りの認識が十分とはいえないため、継続して指導していく。 ・大半の児童は時計を読むことができるが、日常生活においても、時計の意識づけを継続していく。	・計算カードを活用して、繰り返し取り組ませる。 ・位取りを意識して筆算に取り組ませていく。 ・日常生活の中でも繰り返し時計を意識させるようにし、何時何分であるかを頻回で取り上げるようにする。		
3	国語	調 ・「書くこと」では、はじめ、中、終わりの型を使って書けるように、日常的な作文を通した練習をしていく。 学 ・「話す・聞く」では、他の人の話の聞き方を指導する。	・「書くこと」に対して楽しいと感じている児童と苦手意識のある児童の差が大きい。また、書く分量や速さにおいても個人差が大きい。 ・国語科だけでなく日常生活でも「聞く」ことに課題がある。話の内容や中心に気を付けて聞くための基本的な態度（黙って、相手の顔を見て聞く等）を徹底する必要がある。「話す」ことについては話すこと自体は好きな児童が多い。しかし、声の大きさや話すスピードなど相手を意識した話し方をする児童は少ない。	・自主勉強ノートなどを活用し「日記」「もしも日記」など楽しんで文章が書けるような活動を取り入れる。書いたものを読み合い、よいところを見付けて感想を伝え合う活動を通して書くこと自信がもてるようにしていく。 ・日常から「話を聞く態度」を徹底させる。その後、話し手の内容の中心は何か に気を付けて聞けるようにする。また「聞き書き」の活動（明日の予定を連絡帳に書く等）など、集中して話を聞く活動を適宜取り入れる。 ・小グループ内スピーチ、学級でのスピーチ、また他教科での発表する活動などを意図的に設定し相手を意識した「話す活動」を指導する。		
	算数	学 ・既習事項を活用して考えることを継続して指導する。 調 ・問題演習の機会を増やし、文章題への苦手意識を減らす。	・算数が好きな児童が多く楽しんで学習に取り組む児童がいる一方極端に苦手意識のある児童もいる。 ・文章題においては苦手意識が高い。	・習熟度別少人数指導を十分に活用し苦手意識のある児童、に対して個別に丁寧にスモールステップで指導する。 ・授業の初めに前時までに学習した内容を振り返る時間をとる。また、既習事項を活用すれば未習内容であっても自力で解決できる経験を積みませ、課題を自分で解決できる喜びを味わせていく。 ・文章題において何を問われているのか、何を求めるのかを読み取る指導を徹底する。また、図や線分図などが問題を解くために有効であることを指導し、苦手意識を払拭できるように指導する。		

4	国語	調 - 本校の正答率は76.4％と、全国を6.4％、新宿区を4.2％上回っている。内容別にみると、8つのうち7つの正答率が全国、新宿区を上回り、観点別では「書く能力」「読む能力」の正答率が全国を大きく上回った。 学 - 学習に意欲的に取り組む児童が多いが、学習の定着に個人差がある。 「話すこと」は3年次に成長が見られたが、「聞くこと」はいまだに得意とは言えない児童もいる。	「書くこと」に対して前向きに取り組める児童と苦手意識のある児童の二極化がやや気になる。消極的な児童ほど、仕上がりも拙い。 - 自分の考えをしっかりとノートやワークシートなどには書けるが、積極的に挙手し進んで発言しようとする児童は少しずつ減っている。 - ローマ字を読んだり書いたりすることが苦手な児童が多い。	- ペア、小グループでの話し合いなど、話し合いの形態を変え、自分の考えを深めたり確かなものにしたりしながら自信をもたせ発言できるようにする。また、発言の話型などにも必要に応じて示し、安心して発言できるように指導する。 - 生活の中にある身近なローマ字で表記されたものを多く読む経験を積ませる。また短時間学習などの時間に東京ベアシック・ドリルを活用し繰り返し練習する。 - 書く活動を日常的に取り入れる。良い書き方のモデルを示したり、語彙が増えるような授業をおこなったりして、書くことへの抵抗が減るようにする。		
	算数	調 - 本校の正答率は79.8％と、全国を6.5％、新宿区を4.6％上回っている。内容別にみると、7つのうち6つの正答率が全国、新宿区を上回り、観点別では「算数への関心・意欲・態度」「数学的な考え方」の正答率が全国を大きく上回った。 学 - 学習に意欲的に取り組む児童が多いが、学習の定着に個人差がある。 - かけ算の筆算などで、学んでから時間が経つとやり方を忘れてしまう児童がいる。 - 急いで問題を解く児童が多く、小さなミスが多い。また、見直しをしない児童も多い。	- 問題の内容や、使われている用語も確認して課題に取り組むことが必要。 - 課題には意欲的に取り組むが、学習理解が高い児童ほど、ノートに整理して書いていくことができない児童がいる - 表やグラフ作成の手順は理解しているが、丁寧さに欠ける。	「時刻」「時間」など間違えやすい用語について確認する。 - 定規の使い方や点の打ち方など、図形を描く際には細かい点にも気を付けるように指導し、ノートの使い方についても再度共通理解を図って整理して書けるように指導していく。 - 習熟度別学習ではどの児童も自力で解決できるような課題を提示し、自分なりに考えた図や言葉、式で表すことでわかったことを実感できる授業を組み立てる。 - 学習意欲の高い児童には、さらに工夫して意欲に応える課題を提示していく。		
5	国語	調 - どの領域においても目標値、区平均正答率を上回っている。特に物語の読み取り、説明文の読み取りはそれぞれ、10ポイント以上上回っている。一方「書く」領域では目標値を上回っているものの他の領域に比べると数値は低くなっている。 学 - 学習に対して真面目に意欲的に取り組む。 - 読書が好きで、学年の読書目標である年間5000ページの読書目標を多くの児童が達成した。 「書く」ことに対する意欲は個人差が多い。また苦手意識をもっている児童も多い。	- 読書によって読み取る力がついていると考えられるが、読書の質に課題があったり、や読書を好まない児童も名いたりする。 - 詩や俳句、生活作文などに対しては比較的楽しんで書くことができる。一方、読書感想文や意見文等には苦手意識をもった児童が多い。	- 読書力が説明文、物語文の読み取る力につながっているので、今後も読書の時間を確保していく。一方、読書の質も上げられるように国語の時間、朝読書等の時間を有効に活用し指導していく。 「書く」ことに関して身構えず、楽しんで書けるように指導する。 - 読書感想文や意見文などは、構成や書き出し、表現の仕方など「型」を提示し安心して書けるように指導していく。		
	算数	調 - 本校の正答率は81.2％と、新宿区を7.7％上回っている。観点・領域別にみると、7つの観点・領域全ての正答率が全国、新宿区を上回っている。特に「数学的な考え方」の正答率が12.4％と全国を大きく上回った。 学 - 学習に意欲的に取り組む児童が多いが、学習の定着に個人差がある。 - 図形の領域、特に「平行と垂直」「平行四辺形、ひし形」の学習は、興味をもって取り組めたものの、時間が経つと作図の方法や角の関係を忘れてしまう児童がいる。 - 学習内容を理解してはいるが、小さなミスも多い。また、作図などでの丁寧さが足りない児童が目立つ。	- 算数の基礎基本は、ほとんどの児童が習得しているが、学年相応の学習内容を習得していない児童もあり、個人差が大きい。 - 算数のノートを丁寧に書くことができるが、自分なりの工夫や思考を深めるようなノートの活用ができていない。 - 問題解決的な問題に関心をもち、意欲的に取り組むことができる。	- 学習の定着が難しい児童については、東京ベアシック・ドリル等を活用し、個別に対応する。 - 習熟度別学習ではどの児童も自力で解決できるような課題を提示し、分かったことを実感できる授業を組み立てる。また、見通しをもって課題に取り組めるように、板書や視覚で捉えられる表示などを工夫する。ノート指導も丁寧にやっていく。 - 問題解決型の授業を取り入れ、児童の意欲を高める。 - グループでの話し合いや発表の活動を多く取り入れ、思考力と共に表現力を高めさせていく。		

6	国語	調 - 本校の正答率は75.2％と、全国を3.2％、新宿区を0.5％上回っている。観点・領域別にみると、6つの観点・領域全ての正答率が全国、新宿区を上回り、特に、「読む能力」および「読むこと」の正答率が全国を大きく上回った。 学 - 学習に対して、意欲の差があり、そのことから学習の定着にも個人差がある。 「話すこと」は前年度より、正答率も上がったが、「聞くこと」は得意とは言えない児童もいる。 - 問題文に対して、理解に差がある。また、問題文に対しての答えに小さなミスが多い。また、見直しをしない児童も多い。	- 段階的に指導し、決められた手順で答えを出していくことは得意だが、大枠を捉え、自分で考えながら、解いていくことが苦手である。 - 書く力に関しては、個人差が大きい。作文を苦手としている児童も多く、継続的な指導が必要となる。 - 漢字に関しては、文章の中で書くなど活用に関して、課題がある。	- 問題解決として、課題を捉え、児童が思考する場面を授業の中で意識して増やしていく。 - 継続的に作文を指導していく。短文文や行事作文、日記など多様な形式で書かせ、自分の思いを表現することを意識させる。 - 漢字では小テストを活用する。繰り返し、取り組むことで、課題意識をもって練習できるようにする。行事作文などの活動を通して、児童が自ら書く意識を育てる。また、作文の中でも漢字を意識的に使うように指導する。		
	算数	調 - 本校の正答率は64％と、新宿区を1.7％下回っている。観点・領域別にみると、7つの観点・領域全ての正答率が新宿区を下回りっている。「算数への関心・意欲・態度」「数学的な考え方」の正答率が全国を大きく上回った。 学 - 学習に意欲的に取り組む児童が多いが、学習の定着に個人差がある。 - 図形の領域、特に「合同」では、丁寧に取り組んではいても、時間が経つとやり方を忘れてしまう児童がいる。 - 図形を作図する際には、用具の操作に時間がかかる児童が多い。	- 理解度に関して、個人差が大きい。特に数から図に具体的にイメージすることが難しい児童がいる。 - 公式を覚えているのだが、公式の意味や内容を理解し、活用できる児童が少ない。 - 図形に関しても個人差が大きい。問題文から具体的に図形をイメージすることも苦手である。	- 授業内では、公式を教えるだけではなく、なぜ公式で問題が解けるのか、説明できるように指導する。また、式と図、図と言葉など、複数の方法で説明できるように指導する。 - 算数への抵抗感が減るように、スモールステップの指導を行う。 - 図形に関しては、作図の時間を重点的にとり、体験的に理解させるように指導していく。		
音楽	学 全体的に音楽の学習に意欲的な児童が多く、すすんで表現や鑑賞の学習に取り組もうとしている。		音楽活動を楽しんでいる児童が多い一方、自己肯定感が低く、のびのびと表現をしたり自分の考えを発表したりすることに消極的な児童も見られる。	毎時間の授業で努力の様子や前回よりものびたところを教師が認めてほめたり、各題材でペアやグループなどの活動を取り入れたりして児童が互いのよさを認め伝え合う活動を設定する。		
図工	学 どの学年も材料に積極的に関わり進んで活動し、自分なりの表現を試し発想しようとする意欲的な児童が多い。		自分の表現への肯定感が低く、自分の思いに合わせて画材や素材や表現方法を選んで効果的に表す力がやや弱い部分が課題である。	- 自分の表現のよさや他者の表現のよさに気付き、自信を持てるように言語化して伝える活動を多く設定する。 - 画材や素材や表現方法を発達段階に応じて豊富に用意し、自分の思いに合わせて選択できる活動を設定し思考力、判断力、表現力を高める。		
特支						

調

…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況

学

…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト等から見える学習の状況
※分量は2 ページ以上となってもよい。